

# 白馬岳&朝日岳&栂海新道山行報告

【山行日】2023年 7月 22(土)~26(水)

【集 合】岩舟支所P AM 3:00

【費 用】交通費他 : 62,000円

【メンバー】CL:鈴木、SL:廣瀬

飯野、小林、嶋田、福島

7月22日(土) 晴れ

蓮華温泉登山口から白馬大池、小蓮華岳を經由白馬岳に登り白馬山荘へ宿泊する。

岩舟支所 P3:00=蓮華温泉P7:00/7:20~

白馬大池 10:55/11:25~小蓮華岳 13:30/13:50

~三国境 14:20/14:30~白馬岳 15:30/15:40~

白馬山荘 16:00



栂海新道に行きたいのでお願いしますと言われたが、我輩の体力を考えて無理ですと断った。ところが「どうしても行きたいので、何とかお願いします。」と熱望され、朝日小屋に2泊で計画した。



栂海新道は朝日岳から親不知の日本海まで縦走するコースだが、全コース縦走は体力的に無理なので、朝日小屋に2泊し栂海新道のお花畑を見てピストンで朝日小屋に戻る計画を立てた。当初、21日(金)からの予定だったが、22日(土)の朝日小屋は朝8時から TLE しても予約できなかった。

仕方なく22日(土)からの日程変更し、何とか宿を確保でき計画を実施することが出来た。岩舟支所を3時に出発し蓮華温泉駐車場に向かうが、土曜日なので駐車場が空いているか

心配しながら走った。蓮華温泉に着くと駐車スペースが数台分空いていて車を止めることが出来安

堵した。支度を整え、トイレとストレッチを済ませて出発する。蓮華温泉の建屋の裏側から標識に従って登山道に入り、小さな沢を渡って山腹をゆっくり登って行く。蓮華ノ森、栂ノ森を経て、樹林帯の道を大きくジグザグに登り高度を上げて行く。しばらく登ると視界が開け、天狗ノ庭と呼ばれる広場に出る。雪倉岳や旭岳の展望が素晴らしく、休憩を取って水分を補給する。この先は尾根の右側を巻くように樹林帯の道を進み、きつい登りは無いが長い道のりを登って行く。同じような景色に飽きたころ、突然視界が開け白馬大池の平坦な場所に出る。



道の両側にはチングルマやハクサンイチゲの花が咲き、ハクサンコザクラも群生して見事である。



白馬大池でランチタイムとし、ベンチに腰かけて各自持ち寄ったランチをいただく。白馬大池やお花畑を見ながらのランチは格別で、とても美味しくいただいた。トイレを済ませたら出発し、稜線の道を小蓮華山へ向かう。異変はこの後起こり、岩の段差を登る時我輩の右足に痛みが走った。直ぐに治ると思っていたが痛みは治まらず、ツムラの68番を飲んで様子を見る。ゆっくり歩くと痛みは無いが、段差や少し早く歩くと痛みが出る。ゆっくり歩けば登れるので、

SLに皆さんをお願いして先行してもらい、我輩は後からゆっくり登ることにして小蓮華山で落ち合うことにする。ここからの稜線歩きが素晴らしいので、皆さんは展望とお花を楽しみながら登ってほしい。小蓮華山で皆さんと合流し、我輩の歩きでは4時を過ぎてしまうのでここからも先行してもらおう。我輩は稜線からの展望や、お花を楽しみながらゆっくり登って行く。ウルップソウやミヤマダイコンソウ、ミヤマアズマギク、タカネナデシコ、イワツメクサ、タカネツメクサ等々のハナバナが咲き乱れ元気をもらう。田部井淳子さんの『ゆっくりでも休まず歩けば必ず頂上に着く』という言葉の思いながらゆっくり登って行った。ところが三国境に着くと、皆さんが休憩しているではないか。我輩と言葉を交わし、直ぐに出発して行った。我輩も少し休憩したら出発する。



ここから白馬岳まで稜線を登って行くが、我輩にとっては試練の登りであった。ガスが掛かっている暑さを感じず登れたが、いかんせん足が前に出で行かない。道の両側に咲く花々に癒されながらゆっくり登って行く。ようやく白馬岳に着いたが、山頂には誰ひとり無くガスに包まれて眺望は得られなかった。三角点にタッチしたら下山開始し、白馬山荘へ向かう。白馬山荘に着くと皆さんが待っていて、部屋には入れたが全員揃わないと受付が出来ないとの事。受付を済ませるが、個室を谷訳した特権のスカイプラザの朝食を食べたいというので、明日は朝食を食べてから出発することにした。部屋に案内されたら着替えて、早速外のベンチで反省会が始まる。乾杯してビールを飲み始めると、小林さんがスカイプラザは関が空いていますと。みんなでスカイプラザに移動して、あらためて乾杯した。天空のレストランで飲む生ビールは最高で、今日一日の疲れが一気にとれたような気がした。夕食を食べたら部屋に戻り、明日に備えて早めに就寝した。

**7月23日(日) 晴れ**

**白馬山荘から三国境まで戻り、雪倉岳を經由して朝日小屋へ宿泊する。**

白馬山荘 6:15～白馬岳 6:30/6:35～三国境 7:15～雪倉岳避難小屋 8:30/8:40～雪倉岳 9:30/9:40～

## 昼食 11:45/12:15～水平道分岐 12:45～朝日小屋 14:30

朝 4:30 分に起床し、出発の為の身支度を整え、5 時 30 分に朝食を食べるためにスカイプラザへ



向かった。今朝の天気は、多少の雲もあるが見晴らしが良く、食事の前に外へ出てみると白馬岳の向かい側の旭岳の全貌を見ることができた。スカイプラザでの朝食を終えて、トイレをすませてから、6:10 分頃に白馬山荘前で準備体操を行い、白馬岳の山頂へ登って行くと雲もほとんど無くなり、360 度見渡せるほど天候が回復していた。約 20 分で白馬岳の山頂に登って、記念写真を撮った。その後、稜線沿いに三国境まで下り分岐を左折してくたり、鉢ヶ岳を巻いて進み雪倉岳避

難小屋に向かう。この間は左側の斜面にお花畑が連続して見られ素晴らしい。チングルマやハクサンイチゲ、品にキンバイなどが斜面の下から上まで咲き乱れ、まさに花回廊と言われる所以である。雪倉岳避難小屋に着き、花を眺めながら休憩して足を休める。避難小屋からいっきに雪倉岳に登り、1 時間弱で山頂に到着し、山頂から見える山々を堪能した。その後、お花畑で休憩してから 30 分程歩いて昼食をとった。朝日小屋へ行くには朝日岳へ登って



から、西側に降りるルートと朝日岳に登らずに山腹を巻く『水平道』があるが、明日は、朝日岳に登る予定であることから『水平道』を進んで朝日小屋へ向かった。『水平道』と名前がついているが、実際に歩いていると登り、下りが連続し大変な道でした。それでも途中には小湿原がいくつも

有り、キヌガサソウやサンカヨウの花が咲きとても綺麗でした。アップダウンが激しい曲がりくねった道を 1 時間 10 分程歩くと朝日岳からの道との分岐に着いたが、そこから朝日小屋は見ることができない。標識通りに行くと、又、登り坂が続いていて、“朝日小屋はまだかいな～”10 分程登るとやっと小屋が見えてほっと一息でした。



小屋についてから身支度をして、3 時過ぎから外のベンチでビールを飲みながら反省会をしました。

夕食までちょっと昼寝をしていると食事の準備ができたようで、食堂へ向かいました。

食事前に女将さんから挨拶があり、新しいメニューにラーメンを出したところ好評だったので今日も準備しました等の挨拶がありました。我々のメンバーの中にもラーメンの汁にご飯を入れて食べた人もいたようです。食事を済ませると部屋に戻り、夕日を見ながら寝床に着きました。実は、10人位が泊まれる程、広い部屋でしたが部屋にカーテンが無く夕日が沈むまで暗くならなかったのです。

廣瀬 記

**7月24日(月) 晴れ**

**朝日小屋から朝日岳に登り、吹上のコルから  
栂海新道のお花畑の核心部をピストンで  
楽しみ、朝日小屋へ連泊する。**

朝日小屋 5:00～休憩 5:30/5:35～朝日岳  
6:00/6:10～吹上のコル 6:35/6:40～照葉の  
池～ピーク上の岩 7:15/7:20～アヤマメ平 7:45  
～休憩 8:25/8:30～アヤマメ平 9:15/9:25～  
ピーク上の岩 9:55/10:20～照葉の池～  
吹上のコル 10:55/11:05～朝日岳  
11:40/12:00～朝日小屋 12:50



ウが咲いている。けっこう急登でどんどん高度を上げて行く。前を歩くパーティの人が「能登半島が見える。」と言っている。左に見えるらしい。「能登半島！富山湾！随分遠くへ来た。」と思った。右には白馬岳が見えている。何故か懐かしい。30分程登った所のお花畑で休憩。ハクサンイチゲ、ミヤマキンポウゲ、ハクサンフウロ。遠くに剣岳の雄姿が見えている。イチゲの白い花に癒されながらまた登って行く。急登となだらかな道を繰り返し山頂へ着く。けっこう賑わっている。合間に写真を撮り 360° の眺望を楽しむ。雲に見え隠れしている火打山・妙高山らしき山を見付けた。

4:00、広く快適な部屋で気持ちよく目が覚めた。食堂で各自が持参した朝食を摂る。朝日小屋はコロナ禍から朝食の提供はしていないそうだ。食堂は自由に使えて「湯、茶、コーヒーの粉、おすまし」が用意されていた。この「おすまし」が美味しかった。

本日も晴れ。今回の山行は天気に恵まれていると思った。ストレッチをして5:00に出発。朝の登りはさわやかで気持ちいい。足下にキヌガサソ



下り始めると右手に大きな雪渓が現れた。直ぐにお花がたくさん。イブキジャコウソウ、タカネシ



オガマ、ウスユキソウ。お花と景色を味わいながら 30 分足らずで吹上のコルに着く。休憩。風が通っていて涼しい。大岩を迂回し歩き出すと緩やかな登りになる。登りは暑い。樹林帯に入ると涼しい。緩やかなアップダウン。シラビソの樹林帯を下りながら一抹の不安も感じる。下ったら帰りは登る…。樹林帯を抜けると右手に照葉の池が現れた。もう1つ池。雪が浮かんでいる。木道になり気持ちよく進む。足下のアカモノが可愛い。開けた所に出て左右にロープが張られた砂礫

地になった。岩がある。ここで休憩。岩はロープ外なので、「植物を踏まないように。」と S リーダーの注意があった。青空と遠くの景色がいい。

なだらかに砂礫地を下り樹林帯に入る。樹林帯を抜けてしばらく下ると雪渓が現れた。急下りで、雪が溶けて表面が硬くなっている。滑りそうだ。雪渓を避け左の草地を下る。少し下ってアヤメ平に到着。アヤメが見事だ。Sリーダーが「前はもっと見事だった。」と言うが、初めて見る自分たちには美しく見事だった。草原、樹林帯、草原。しばらく草原が続く。休憩場所を探すが日影がない。かろうじて薄い日陰になっている所で休憩にした。目の前に鮮やかな紅色の花が咲いている。タカネバラに似ている。S リーダーが「ベニバナイチゴ」と教えてくれた。この先は同じような景色が続くからと、ここから引き返すことにな



った。

8:30 出発。戻りは緩やかな登りだ。草原は暑い。樹林帯の中は涼しい。40 分位戻ってアヤメ平に到着し休憩。ゆっくり花を見る。ヒオウギアヤメ、イワイチヨウ、ハクサンコザクラ。雪渓は右の草地を登り上げる。ふと見るとシラネアオイの大株があった。一瞬見惚れた。草地の急斜面を登り返し樹林帯に入る。ホッとす。樹林帯を出るとなだらかな砂礫地を登り往路で休憩した岩の所に来た。早いけどここで昼食にすることにした。青空と



遠くの山とミヤマムラサキを見ながら食べた。

木道、照葉の池と過ぎ、吹上のコルに戻った。ここでゆっくり休んだ。朝日岳を見上げて登り返す。



様々なお花が「お帰り。」と言っているようだ。本日2度目の朝日岳は貸し切りだった。いつまでもここに居たい気分だった。先発隊が12:00に出発。後発隊は12:20に出発した。ゆっくりお花を愛でながらも13:10には小屋に着いてしまった。着替え・片付け・反省会とゆっくり過ごし、本日の夕食は5:00だった。連泊なので前日と違う物を用意してくれたそうだ。サバのみそ煮、肉じゃが、ナスのひき肉あえ、ホタルイカの佃煮、そうめん汁、…。肉ジャガはジャガイモが大きく美味しかった。

素晴らしい山小屋ご飯だった。部屋からは昨日より夕日がよく見えた。山小屋の3階なのに目の高さと同じに夕日が沈んで行った。不思議な光景をずっと見ていた。その後は富山県の美しい街明かりが浮かび上がって来た。いつまでも見ていたい気分だった。

福島 記

**7月25日(火) 晴れ**

**再び朝日岳へ登り吹き上のコルから五輪尾根を下り、蓮華の森から蓮華温泉へ宿泊する。**

朝日小屋 5:50～朝日岳 6:45/7:05～吹上のコル 7:30/7:40～花園ベンチ 9:20/9:30～白高地沢 10:35/11:00～瀬戸川 11:40/11:50～兵馬ノ平 12:30/12:40～蓮華温泉 P13:35～蓮華温泉 13:55

5:00起床、昨日の朝同様、食堂でおいしいおすましやコーヒー、お茶をごちそうになりながら朝食を済ます。前日に買ったますの寿司や混ぜご飯を食べた人もいた。



5:50朝日小屋発、昨日通った慣れた道を朝日岳山頂目指して歩き始める。前日よりもすっきりと晴れ、登ってきた白馬岳や、すっきりと美しい姿の旭岳、立山、剣岳、大日岳、奥大日岳などを望むことができた。6:45 朝日岳頂上に到着。今日はゆっくりの出発だったため、山頂独り占め。20分ほど写真を撮ったり、地図を眺めたりして、最後の朝日岳頂上を堪能。

7:30吹上のコル着。水分補給をしながら、最後の黒部川や日本海を望む。

歩きながら、初日からたくさん見てきた高山植物の復習。覚えきれません👤



五輪尾根を緩やかにアップダウンを繰り返しながら下り、いくつもの湿原を横切っていくがお花畑が素晴らしい。特にハクサンコザクラの大群落がいくつも見られ、実に見事でした。

9:20ベンチのある広場で休憩。栃木から荷揚げしてきたおいしいカリントウをごちそうになる。

ここが花園三角点かと思えば、まだ先らしい。9:40花園三角点通過。いいペースで下っているのに、コースタイムより時間がかかって

いるのはなぜ？

10:35白高地沢着、昼食休憩。この橋を上から見たときは、遙か遙か下に見え、ここに降りてくるとは思っていなかった。

11:40瀬戸川着。小休止するも、まさかここから蓮華温泉までずっと登り上げるとは、想像していなかった。12:30兵馬ノ平着。湿原にあやめ等の花が美しいが、暑くて早々に日陰に避難。吹き渡る風は涼しく、少し長めの休憩をとる。

13:35蓮華温泉登山口着。暑かった、登りがき



つかった、汗びっしょり、お疲れ様。

秘湯と言われる蓮華温泉にチェックインして、内湯で汗を流したあとは生ビールで乾杯。その後女性陣は、山道を15分歩いて地獄谷のような景色を見ながら薬師湯へ。女性だけの利用が可能な露天風呂を満喫できた。

おいしいキノコの味噌汁やお肉、湯豆腐の夕飯をいただき、再び内湯へ。

頑張って下山した後の温泉と食事は最高だった。

小林 記

**7月26日(水) 晴れ**

**蓮華温泉から長野市の善光寺を観光して帰路につき、無事岩舟支所Pに帰着。**

蓮華温泉 7:00＝鬼無里直売所 8:30/8:50＝善光寺 9:20/10:45＝東部湯の丸SA11:40/12:30＝岩舟支所 P14:30

7月26日、いよいよ栂海新道山行の最終日になりました。早朝より温泉につかり、4日分の疲れを再度癒やし、心身共にリフレッシュした。6時に朝食をいただき身支度を調べ、予定より早めの7時

に蓮華温泉ロッジを出発した。道中、白馬岳の勇姿を眺め4日間の山行を振り返りながら、北アル



プスに別れを告げ善光寺へと向かった。途中、鬼無里の直売所に寄りトイレタイムとお買い物を済ませる。9時20分に善光寺近くの駐車場に到着。北アルプスとは一転、暑い日差しの中をおしゃれな仲見世通りを歩き、汗をぬぐいながら善光寺へと向かう。善光寺本堂は東日本最大の伽藍であり、国宝に指定されているそうだ。お参りをしてから「お戒壇めぐり」をした。真っ暗闇の中

を手探りでこわごわと進む。後で知ったが、途中にある「極楽の錠前」を探り当てて秘仏のご本尊を結縁する道場だったようだ。ともあれ、各自の心に秘めた願いを託せたようだ。その後善光寺資料館で見聞を広め、10時45分、車に戻り、帰路についた。途中のサービスエリアで昼食をとり、お土産を購入し、岩舟支所に無事に14時30分に到着。天気にも恵まれ、可憐な高山植物や、かわいらしい雷鳥の親子に出会い、白馬岳、朝日岳などの勇姿にうっとりする、感動の連続の5日間であった。



飯野 記